

# 天童市民病院

## 改革プランの進捗状況と平成21年度決算について

全国の公立病院で経営状況の悪化が顕在化したことを受けて、総務省は平成19年12月に「公立病院改革ガイドライン」を公表し地方自治体に「公立病院改革プラン」の策定を求めました。

これを受けて、当市民病院も平成21年6月に「天童市民病院改革プラン」を策定し、経営改善に取り組んできました。平成21年度の決算状況を踏まえ、改革プランとの比較検討を行いましたので、取りまとめて公表します。

今後とも市民のための病院として、経営改善に向けた改革を推進してまいりますので、市民の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

### 1 総括事項

平成21年度は、近年における診療報酬や健康保険法の改正に加え、社会環境の変化による大病院志向化が進み、病院を取り巻く環境は、依然厳しい状況にあります。

平成21年度の収支の状況につきましては、前年度に比べ改善しておりますが、改革プランの目標数値には及びませんでした。

また、診療体制につきましては、平成20年度の常勤医師8人体制に対し、平成21年度は常勤医師6人の厳しい体制の中、新たに整形外科を診療科目として加えることができました。

### 2 収支の状況

病院経営の要となる平成21年度の医業収益は、前年度より46百万円増加しましたが、改革プラン値に57百万円及びませんでした。しかし、一般会計からの繰出金をはじめとする医業外収益が106百万円増加したことにより、総収益は改革プランの目標値を達成できました。

一方、平成21年度の総費用は、前年度より16百万円の増となり、また改革プラン値に比べ117百万円の超過となりました。特に平成21年度の給与費については、退職金約123百万円の支出が大きく影響しております。

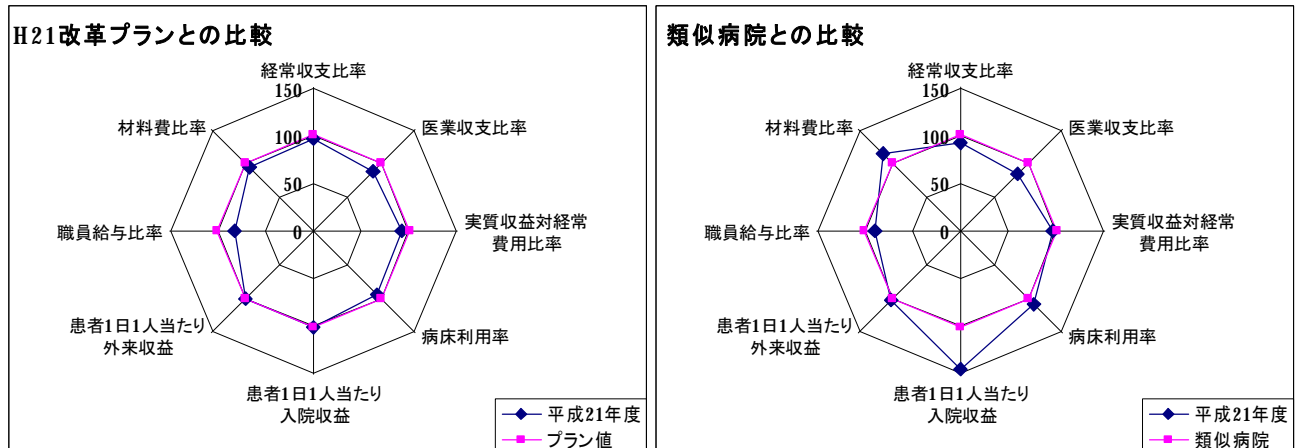
経常収支では、前年度より100百万円の改善を図ることができましたが、194百万円の赤字となり、改革プランの平成21年度の目標値に及びませんでした。

(単位：百万円)

項目		H20年度(実績)	H21年度(実績)	H21改革プラン	プラン値比較
医業収益	料金収益	935	968	1,033	93.7%
	その他	78	91	83	109.6%
医業外収益	負担金	309	379	273	138.8%
	その他	1	1	1	100.0%
総収益		1,323	1,439	1,390	103.5%
医業費用	給与費	787	770	663	116.1%
	材料費	197	203	205	99.0%
	経費	341	375	363	103.3%
	減価償却費	189	192	190	101.1%
	その他	1	1	1	100.0%
医業外費用	医業外費用	100	90	92	97.8%
総費用		1,615	1,631	1,514	107.7%
経常収支		△ 292	△ 192	△ 124	154.8%

### 3 経営指標等

#### 主要指標の類似病院との比較



※天童市民病院改革プラン及び平成 20 年度地方公営企業年鑑の類似病院の平均値を 100 とした場合の当院の平成 21 年度実績との経営指標数値の割合を示したものである。

(単位：％、円)

項目	H21 年度(実績)	H21 改革プラン	差分	達成状況	類似病院
経常収支比率	88.2	91.8	△ 3.6	↓	95.9
医業収支比率	68.7	78.5	△ 9.8	↓	81.7
実質収益対経常費用比率	73.7	80.4	△ 6.7	↓	76.5
病床利用率	73.2	78.8	△ 5.6	↓	68.0
患者 1 日 1 人当たり入院収益	29,641	29,400	241	↑	20,561
患者 1 日 1 人当たり外来収益	7,550	7,500	50	↑	7,462
職員給与比率	72.7	59.4	△ 13.3	↓	64.6
材料費比率	19.2	18.3	△ 0.9	↓	22.0

※達成状況は、改革プランと比較して↑が目標達成、↓が目標未達成です。

#### 【収支構造】

○経常収支比率（％）  $\text{総収益} \div \text{総費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が 100%以上であることが望ましい。

○医業収支比率（％）  $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が 100%以上であることが望ましい。

○実質収益対経常費用比率（％）  $(\text{総収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{総費用} \times 100$

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が 100%以上あることが望ましい。

#### 【収入構造】

○病床利用率（％）  $\text{年延入院患者数} \div \text{年延許可病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要がある。

○患者1日1人当たり入院収益(円)  $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$

○患者1日1人当たり外来収益(円)  $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要になります。

### 【費用構造】

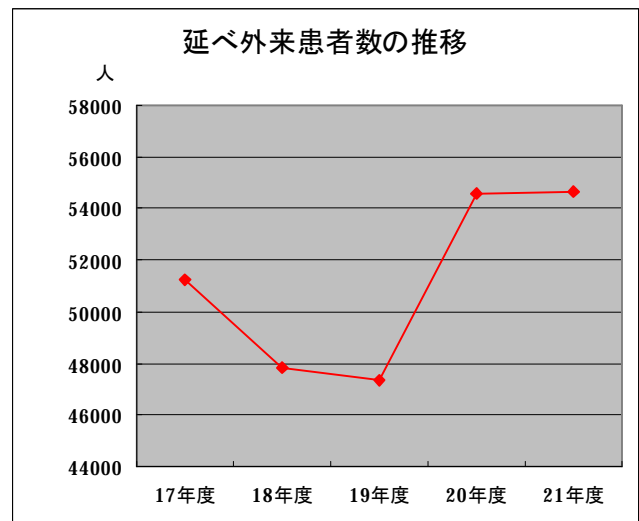
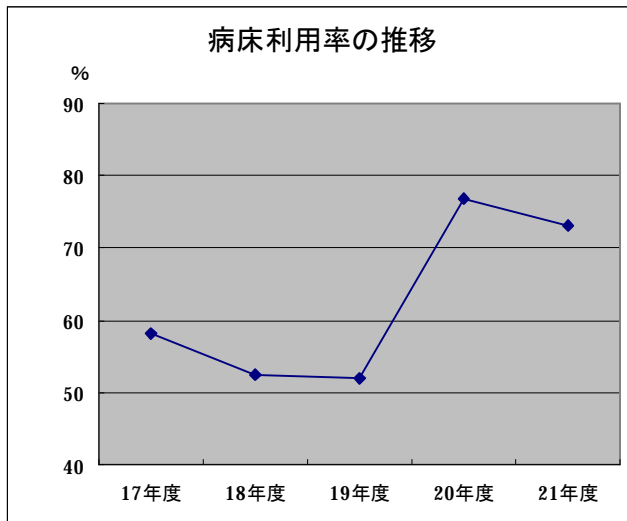
○職員給与比率(%)  $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。

○材料費比率(%)  $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウェイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

## 4 病床利用率・外来患者数の推移



(入院)

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
病床利用率	58.3%	52.4%	51.9%	76.8%	73.2%

(外来)

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
延べ外来患者数	51,231人	47,798人	47,365人	54,574人	54,674人